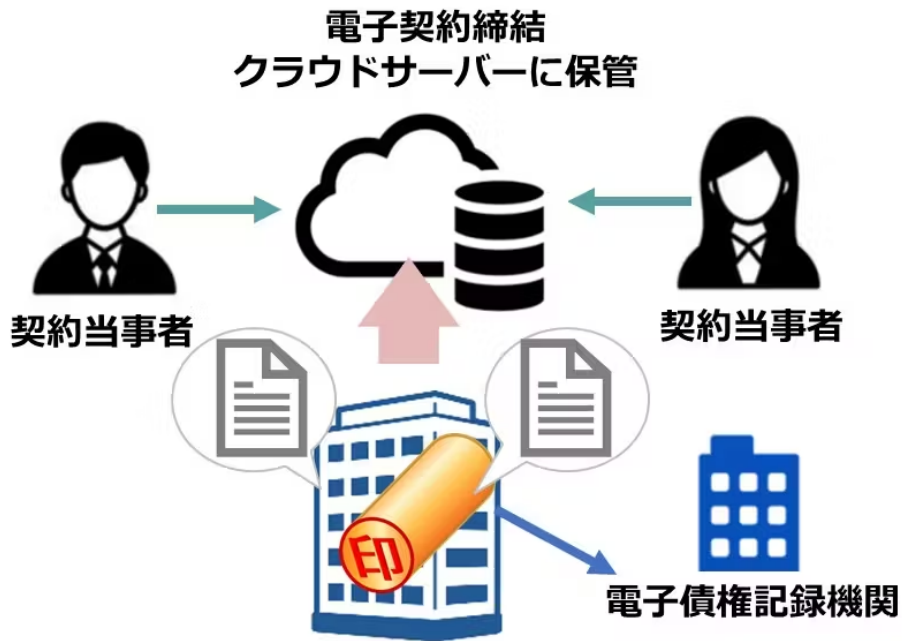


## リーテックス、設計図面も長期保存できる電子契約

2023/6/7 16:20 | 日本経済新聞 電子版



リーテックスの「100年電子契約」の概要

電子契約サービスのリーテックス（東京・新宿）は、3次元（3D）の設計図面などの大容量ファイルを電子契約の添付資料として長期保存できるサービスを開始した。ビル建設といった添付資料の長期保存が必要で、契約金額が大きい不動産や建設会社への普及を目指す。

同社が新たに始めたサービスは「100年電子契約」。電子契約サービスでは一般的に、契約書のPDFファイルだけに電子署名を付与する。契約書に添付する仕様書や工事記録などのファイルには電子署名を付与せず、契約書のPDFにファイル名を記録して格納する。しかし添付できるファイルの種類や容量に制限がある場合が多い。

100年電子契約は数百ページに及ぶ付属資料など、様々な種類のファイルを添付できる。容量が大きいCAD（コンピューターによる設計）の設計図面や、コンピューター上に現実と同じ建物の立体モデルを構築する「ビルディング・インフォメーション・モデリング（BIM）」のファイルも、オプション料金を払えば容量の制限なく保存できる。

リーテックスのサービスは、電子署名法に基づく一般的な電子契約サービスとは異なる。法人間の商取引で発生した債権の支払いを対象にした国の電子記録債権制度を利用しており、電子債権記録機関が記録原簿を管理する。契約を巡る紛争が起きた場合のリスク管理がしやすい。

ビルなどの建築物は使用期間が50年ほどに及ぶため、契約書も50年以上の保存が必要だ。もしサービスの運営会社が経営破綻しても、制度的にデータの保存が保証される特徴がある。電子契約は紙の契約書にかかる印紙代が不要になるので、契約額が大きい建設工事の請負契約などでは費用を削減できる。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。